

JR京葉線のダイヤ改善を 千葉県議会議員 河野としのり 県議会で訴える!

千葉県議会議員

河野としのり



千葉県におけるJRへの折衝は、県執行部の総合企画部でJR沿線市町村からの要望を取り纏め行っています。河野県議は、先ずこの担当課と何度も打ち合わせを行い、ダイヤ改正による地元の方々の不便さを訴えました。また、各会派を繁く回り多くの議員の方々に下図のごとく、いかに



にダイヤの列車本数が激減し、生活に支障を起こしているか訴えました。さらに、県議会の執行部に対する意志を鮮明にする為、下記のごとくの請願書を出し、常任委員会にてこのダイヤ改正について活発な審議を求めました。請願書は、今後の県執行部のJRへの強い働きかけに期待し、本会議にかけられ継続審査の扱いとなり、執行部は県議会を強く意識して動くことになりました。

定例県議会において、新旧のダイヤ表を持ち出し、「昨年の12月のJR京葉線のダイヤ改正により、列車本数は極端に激減し、午前10時～午後4時までの列車本数は平日で30%、土日休日で45%近く減っている。本当に不便になった。」とダイヤの改善を訴える河野としのり県議。

河野としのり県議が提出した請願書(抜粋)

第6号 平成15年6月5日受理

件名 JR京葉線のダイヤ改善を求めることについて

要旨(抜粋)

平成14年12月1日のJR京葉線ダイヤ改正により、JR京葉線の稲毛海岸駅、検見川浜駅においては、午前10時から午後4時までの列車本数は、約30%も本数が減少し、さらに、土日休日のその時間帯に於ける列車本数は、ほぼ半分近くに(時刻により45%減から50%減)激減された。

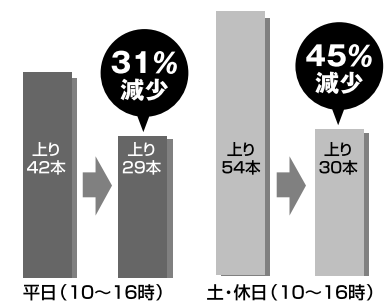
両駅利用地域住民にとって、生活に深く密着した列車のダイヤが、ある日突然、極端に減ることについては堪え難く、今までの生活リズムが大きく狂い大変な不都合を感じており、JR線の持つべき公共性にも強い戸惑いを感じている。

今までの数十年のダイヤの在り方を白紙に戻すような列車本数の極端な減少がこのまま放置されるとなると、千葉県下のここ数十年造成された駅のある新しい街の住民にも大きな不安を抱かせ、ひいては千葉県にも大きな損失となる。

以上の趣旨から、次項について措置願いたい。

- 従来の列車ダイヤを白紙に戻すような大幅なダイヤ改正については、行政が列車事業者より事前に通告を受け、その改正が利用地域住民の利便性に充分配慮したのかを調べ、もし極端な不便さを生じるものなら、県として、強く事業者に改善を求めること。
- 平成14年12月1日のJR京葉線ダイヤ改正による、稲毛海岸駅、検見川浜駅の列車本数の極端な減少を改善するため、少なくとも、その改正以前の列車本数以上に回復することを県として、JRに強く働きかけること。

●平成14年12月1日前と以降のダイヤの列車本数比較(稲毛海岸駅・検見川浜駅を一例として)



【河野としのり県議の感想】

突然、列車本数を激減するダイヤ改正は、利用する地域住民の方々にとっての気持ちをまったく無視しています。執行部とは連日打合せを行い、JRに強く働きかけることを迫り、また請願書を出し、県議会の常任委員会で活発な審議を行いました。議会の機能は全部使って訴えたつもりです。県執行部は、「JRの公共交通機関としての認識に期待し、強く要望していくしかない。引き続き千葉市も入っている『総武線・京葉線対策部会』で、対応を協議していく。」と答えました。これからも県とJRの対応を見つめながら、訴えて参りたいと思います。